
Dream “ not ” came true ?

麻生柚葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

D r e a m “ n o t ” c a m e t r u e ?

【Nコード】

N 5 9 2 7 M

【作者名】

麻生柚葉

【あらすじ】

これは、ある日の二人と夢のお話

どちらが夢で、どちらが現実？

どちらが正しく、どちらが逆さま？

正夢を見たのは誰か、逆夢を見たのは誰か、現実は一体・・・どれか

01・あるひのことです。大雨がふって馬車がたおされました。

01・あるひのことです。

大雨がふって馬車がたおされました。

ああ、なんてついてない日なんでしょう。

馬車の前に誰かが、何か投げつけたのでしょうか
馬は動転し、そしてそのままバランスを崩し倒れてしまいました。
車輪は外れ、もう走る事は出来なさそうです。

ああ、なんてついていない日なんでしょう。
外は大雨、屋敷までの道のりはまだまだ長い
そして倒された衝撃で、僕は足を挫いてる

長い長い道のりを、雨に打たれて屋敷まで帰ってきて
ジクジクと痛む足
体温を奪われ、冷える体
そして一番最初に見たのは、あの子の顔でした。

穢れ無き、真っ白な服を纏うあの子に
泥にまみれて、真っ黒な服を纏う僕

きつと、これは何かの暗示
真っ白な君と真っ黒な僕と

相反する僕達は相容れることなど無いのだと、
そう、誰かが言っているようで

どこか遠くで雷が叫ぶ声がした。

01・あるひのことです。大雨がふって馬車がたおされました。（後書き）

Fantastic Syndrome スピンオフ

正夢と逆夢の話。

一人称は「僕」ですが、女の子です。

02・つぎのひのことです。ようやく歩けるようになりました。

02・つぎのひのことです。

ようやく歩けるようになりました。

挫いた足は、まだ痛むけれど歩けない事はないのです。

少し華奢な杖をつき、片足を引きずるような形ではありますが。

真っ白なあの子が、心配してくれたのが
どこかむず痒く不思議な感覚でした。

ああ、でも何故でしょう
どこか歪んで見えるのは
そう、真っ白なはずなのに
どこか染みがあるように見えるのは・・・

考えようと思っても、どこか頭には靄がかかっているようで
答えが解らないままに、そのまま僕は進み続ける

真っ白なあの子はお見舞いだと

青い青い薔薇の花を一輪くれました。

03・そのまたつぎのひのことです。高い塔からつきおとされました。

03・そのまたつぎのひのことです。

高い塔からつきおとされました。

その時、僕は星を見るために離れの塔に昇っていて
少し肌寒いなと思いつつも、観察を続けていたのです。

その日は、月が欠けた日

こんな日には、空の散歩をしてみたいと空想するくらい
月の光に邪魔される事なく星が綺麗に見えました。

しかし、そのまま時は過ぎずに
星に夢中で気づかないままに

よく解らぬままに足は地面を離れ、そのまま転落
空想が現実になり、僕は空を飛びました
ただ違うのは、掴む事無く、零れていつて

落ちていく中、見えたのは
夜の暗闇に似合わない、あの子の白い白い白い・・・

04・そのつぎのあさのことです。めざめてすべてを夢にしました。

04・そのつぎのあさのことです。

めざめてすべてを夢にしました。

だって、僕は生きていて

体の何処も痛くない

足も挫いてなどいなく、置いておいた杖も無い

ああ、これは夢だった。

何て嫌な夢でしょう

笑ってしまいます

あの子が僕を突き落とすなんて事あるわけが無いのに

これは、名付けるのならばなんと言う夢なのでしょう。
“悪夢”でしょうか

夢に捕らわれるなんてくだらない。

大きく一つ伸びをして、ベッドから飛び降りました。

唯一つ、あの子から貰った薔薇だけが
部屋の花瓶に挿してあった事に、僕は気づけない

05・あるひのことです。大雨がふって馬車がたおれました。

05・あるひのことです。

大雨がふって馬車がたおれました。

今日は、なんてついてない日なんでしょう。

飛んできた虫に馬は動転し、そのままバランスを崩し倒れてしまうなんて

しかも、酷い事に車輪は外れてしまいました。

今日はこのまま歩いて帰るしかなさそうです。

今日は、なんてついてない日なんでしょう。

外は大雨、屋敷までの道のりはまだまだ長い運悪く、僕は足を挫いてしまいました。

長い長い道のりを、傘を差しながら屋敷まで帰ってきて

ジクジクと痛む足

体力を奪われ、疲れきった体

そして一番最初に見たのは、あの子の顔でした。

星一つ無い夜空の黒を纏うあの子に

晴れ渡った朝空の白を纏う僕

これは、きっと何かの啓示

真っ黒な君と真っ白な僕と

相反する僕達は相容れることなど無いのだと、
そう、誰かが言っているように

泣き続けていた雨が上がった。

06・つぎのひのことです。まだ、歩けるようになりませんでした。

06・つぎのひのことです。

まだ、歩けるようになりませんでした。

挫いた足は、まだ痛み歩くのはまだ難しそうです。
やはり、無理をして歩いて帰って来たからでしょうか
少し華奢な杖をつき、多少の移動ならできますが。
安静にしていなければいけません。

真っ黒なあの子が、心配してくれたのが
どこかむず痒く不思議な感覚でした。

ああ、でも何故でしょう
どこか嬉しそうに見えるのは
そつ、まがまがしく真っ黒で
どこか狂気を含んであるように見えるのは・・・

考えようと思っても、どこか頭には霧がかかっているようで
もしかしたら僕のこと嫌いなのかもしれない
そう、思っていました。

真っ黒なあの子はお見舞いだと
青い青い薔薇の花を一輪くれました。

07・そのまたつぎのひのことです。高い塔から落ちました。

07・そのまたつぎのひのことです。

高い塔から落ちました。

その時、僕は星を見るために離れの塔に昇っていて
少し肌寒いなと思いつつも、観察を続けていたのです。

その日は、月が満ちた日

こんな日には、空を飛んで月に近づいてみたいと空想するくらい
雲に邪魔される事なく満月が綺麗に見えました。

そして、身を乗り出しすぎていたのでしょうか
月に夢中で気づかないままに

あっという間に足は塔から離れ、そのまま転落
空想とは異なり、僕は月から遠ざかりました。

落ちていく中、見えたのは
夜の暗闇がよく似合う、あの子の黒い黒い黒い・・・

08・そのつぎのあさのことです。めざめて夢だと気づかされました。

08・そのつぎのあさのことです。

めざめて夢だと気づかされました。

だって、僕は生きていて

体の何処も痛くない

足も挫いてなどいなく、置いておいた杖も無い

ああ、びっくりした。

どうして途中で気がつけなかったのでしょうか。

あの子がくれた薔薇は青かった……というのに
本当に、笑ってしまいます。

これは、名付けるならばなんと言っ夢なのでしょう。

“予知夢”？

だとしたら、笑い事ではありませんが

夢を深く考えても仕方ない。

大きく一つ伸びをして、ベッドから飛び降りました。

部屋の花瓶には、薔薇は挿してはありません

しかし、部屋が薔薇の香りで包まれている事に、僕は気づけない

09・あるひのことです。大雨がふって馬車がたおされました。

09・あるひのことです。

大雨がふって馬車がたおされました。

あれ？

どうして？どうして？

これは、夢の続きなの？

馬車はバランスを崩し倒れてしまいました。
車輪は外れ、もう走る事は出来なさそうです。

可笑しいな、どうしてかな？

だけど、ずっとこうしているわけにも行きません
外は大雨、屋敷までの道のりはまだまだ長い

長い長い道のりを、雨に打たれて屋敷まで帰ってきて

ジクジクと痛む足 ああ、痛い
体温を奪われ、冷える体 夢と全く同じだなんて
そして・・・

一番最初に見たのはあの子の顔でした。

穢れ無き、真っ白な服を纏うあの子に
泥にまみれて、真っ黒な服を纏う僕

どうしようもなく、恐怖を覚えた

きつと、これは何かの暗示 あれは夢からの警告
真っ白な君と真っ黒な僕と それはきつと“予知夢”なんだね

相反する僕達は相容れることなど無いのだと、
そつ、誰かが言っているようで

鈍器で頭を殴られたようだった。

10・つぎのひのことです。まだ、歩けるようになりませんでした。

10・つぎのひのことです。

まだ、歩けるようになりませんでした。

馬車が倒れて、あの子が足を挫いたと聞きました。
やはり、あの夢は“予知夢”だったのでしょうか
でも、それならどうして“僕ではなくあの子”なんでしょう・・・

きつと挫いた足は痛み、歩く事は難しい事でしょう
やはり、無理をしすぎました。
少し華奢な杖をつき、多少の移動ならできそうですが
安静にしていしてほしいものです。

真つ黒のあの子を心配して
温室から薔薇を一輪摘んできてお見舞いにしましょう。

ああ、でも何故でしょう
どこか恐れているように見えるのは

- - - あの夢は、“悪夢”じゃない。“予知夢”

そう、まがまがしく真っ黒で
どこか狂気がゆっくんであるように見えるのは・・・

- - - だってこれから君が僕を殺すんでしょう？

考えようと思っても、あの子に得体の知れない恐怖が募り
“夢”の通りに嫌われているのかもしれないと
そう、思ってしまった。

真っ黒なあの子の為に、
流石に、青い薔薇は無いので綺麗な綺麗な白い薔薇を渡しました

11・そのまたつぎのひのことです。高い塔からつきおとされ・・・

11・そのまたつぎのひのことです。

高い塔からつきおとされ・・・

たくはありません。

だから、だから、だから・・・

・・・もしも、あれが“予知夢”なら、あの子が塔から落ちないように

・・・あの子を助けてあげられるように

もしも、あの子が僕を突き落とすなら
何故か理由が知りたいよ

・・・今日の目的は月を見るためじゃない

今日の目的は星を見るためじゃない

二人、顔を合わせる塔の上
欠けた月が照らす夜

照らし出される相手の顔に緊張が見えました。

一歩踏み出そうとし、恐怖で竦み足が纏れました。

・・・ああ！どうか落ちてしまわないで

伸ばされる手に、恐ろしさだけが募っていつて

・・・必死にあの子に手を伸ばして・・・

僕はその手を拒絶した

そして、そのまま
夢が現実になり、僕は空を飛びました

そこで気づく、あの夢は・・・

- - - 落ちるあの子

- - - 夢中で伸ばした手は背中をかするだけで虚空を掴み、届く事は無く・・・

《あの夢は、“正夢”だった。》

- - - あの子は、塔から落ちました。

落ちていく中、見えたのは

夜の暗闇に似合わない、あの子の白い洋服と・・・
泣き出しそうな、必死な顔でした

12・そのつぎのあさのことです。そして、

12・そのつぎのあさのことです。

目の前に横たわるあの子は目を閉じたまま
目を開けることはありませんでした。

夢だと言つて欲しかった

ベッドの上で沢山の包帯を巻きながら眠り続けるあの子
塔の下に植えてあった薔薇達のお蔭で、一命は取り留めたと医者
は言う

ただし、いつ目が覚めるかは分らないと

どうして、どうして・・・

助ける事が出来なかったのだろう

そして、あの夢は、なんだったのでしょうか。

全て外れてしまいました。

馬車は倒れず、足も挫かず、塔から落ちもしませんでした。

《あの夢は、“逆夢”とでも言うのでしょうか？》

だけど、僕が夢で見た事は、あの子が全て体験してしまいました。
どうして？分りません。

僕はあの子の傍らで、その手を握りながら考えます。
しかしどこか頭には靄がかかっているようで・・・
疲れているのでしょうか。

そう言えば、あの子の事が心配でまだ一睡も眠っていません。

何処からか、薔薇の花の香りがして、うつらうつらしてきます。
とても心地よい香りが胸の中に広がります。
ふわりと薔薇の香りに包まれて、ゆっくりと意識が落ちていきます。
少しだけ、眠りましょう

僕が目を覚ましたときに、あの子も目を覚ましてくれる事を願って

誰かが、お見舞いで置いていったのでしょうか。
部屋の花瓶には一輪の青い薔薇の花

そして、めざめることが出来ずに一人は“夢”になりました。

12・そのつぎのあさのことです。そして、（後書き）

最後までよんでいたいただきありがとうございました。
いかがだったでしょうか『Dream “not” came true?』

タイトルですが、正夢？逆夢？？

みたいなノリを出したくて、『?』がついてたり

何処からが何処までが“not（否定形）” 本当の事なのか区別が
つき難い・・・

と言った意味合いな感じです（無理矢理）

分り難いのですが、最初の三話真つ黒なあの子が正夢を見て
真ん中の三話真つ白なあの子が逆夢を見えています。
そして、最後が現実起こった事になってます。

こうして、彼女らは“夢の世界”に連れて行かれ
“夢”になりました。

『Fantastic Syndrome』の前のお話（過去話？）
と捉えてくだされば良いと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5927m/>

Dream “ not ” came true ?

2010年10月31日00時04分発行